

仙台自分づくり教育に見る循環型社会の実現



仙台自分づくり教育研究会 会長
楽学プロジェクト委員会 委員長
山口 哲男

♪はじめてのぼった ひみつのあのおくじょうは
いままでみたことないものがたくさんあったよ♪

この歌声で〔第8回仙台自分づくりフォーラム〕が開会となりました。

仙台市立榴岡小学校と児童館が協働して作成したこの歌は、こどもたちの弟子入りで感じたり、体験したことを歌詞に織り込み作られたもので、こどもなりの感性と地域のことが表現されています。学校を核の一つとした地域力が具体的に見える様です。

このことは、長年に亘り培われてきた地域住人と学校との相互関係の濃密さがもたらしたものであり、仙台駅東部に位置する学区の大規模な街づくり事業による困難な時を越えても確固として地域力を維持していることは、敬服すべきこととして敬意を表したいと思います。

中心になって活動してきた人々と、そのことを理解者として支えた人々。真に〈チーム榴ヶ岡〉で続いてきた先人の努力が今に至っているのだと思います。

さて、先に挙げた〔仙台自分づくり〕もアワードとフォーラムを隔年に開催して第8回を迎えましたが、その始まりは仙台市立寺岡中学校がモデル校として職場体験学習を導入して以来です。また、同じころにスタートした〔楽学プロジェクト〕も今年20年を迎え、仙台版キャリア教育も着実に歩を進めてまいりました。

このことは、創成期に当時の仙台市教育委員会指導課長でおられた庄子修氏が「社会を支える25才を目指して」を合言葉に〔自分づくり教育〕を推進され、今に至る道を拓いてこられたことに発しております。

今年行われたフォーラムに出演してくれた東仙

台中学校卒業の25才の男性と女性の現在の仕事に至った話を聞けば、真に「25才」は相応しい表現であったと納得することができました。

勿論、それぞれの生き方で違いはあるものの一つの目標としての意味は充分かと思います。

それにしても、2020年以来のコロナ禍の影響は大きなものがあり、毎年続けていくことの困難さと大切さを感じております。

このことは、各中学校の地域連携担当教諭と校長先生のご苦勞に表れておりますが、この時こそひとつのチャンスと捉えていただくことには意味があると思います。

〔職場体験〕が始まった当時を思い返すと、今は違った環境とはいえ、ゼロからスタートした大変さは言葉では言い表せないものがありました。時が変わって現在、担当の教諭だけに任せず校長先生を筆頭に全校を挙げて、こどもたちの為に成すべきことを成す覚悟で臨んでいただければ、きっと新たな成果につながると思います。

〔仙台自分づくり教育〕の目指すものは〈たくましく生きる力〉の育成です。今の積み重ねがそれぞれのこどもの人生の礎となって行くことに社会を挙げて取り組み、学校全体として一人一人のこどもに根差した育成に臨んでいくことが、大人社会の責任であると思っています。

大人社会が、その全てを持って支援することで育って行くこどもたち一人一人が、社会を支えてくれる当事者になり、次のこどもたちの育成の担い手となり目標となることが望まれる循環型社会の実現だと信じるものです。

♪はたらくことは とてもたいへんなんだね
それをしつたぼくは きょうもこのまちをあるく♪

総 合